



実質収支は14.8億円の黒字を確保

～令和元年度決算のポイント～

令和元年度の財政運営は、歳入面では税収入の確保や受益者負担の適正化等を進め、財源の確保に努めるとともに、歳出面では支出の適正化や事務事業の見直しを徹底し、重点化・効率化を図りました。その結果、一般会計の実質収支は、14億7,800万円の黒字を確保でき、単年度収支も平成30年度に続き、黒字となりました。今後も健全な財政運営を継続するため、歳入の確保や歳出の適正化に努めます。

■一般会計の概要

《決算収支の推移》

(単位：百万円)

年度	H27	H28	H29	H30	R元
歳入	38,755	37,968	36,939	37,178	41,792
歳出	37,583	37,087	35,886	35,119	40,166
実質収支	917	682	905	1,131	1,478
単年度収支	▲ 998	▲ 235	223	226	347

平成30年度に比べ、歳入は、繰入金、小中学校及び幼稚園のエアコン整備事業などに伴う国庫支出金、また幼児教育・保育の無償化に係る地方特例交付金などが増加しました。歳出は、病院事業会計への貸付金、小中学校及び幼稚園のエアコン整備事業などの普通建設事業費や生駒北学校給食センター運営事業の開始などによる物件費が増加しました。

■特別会計の概要

全ての特別会計（公共施設整備基金、介護保険、国民健康保険、後期高齢者医療、下水道事業）で黒字あるいは収支均衡となりました。

■財政関係指標等

◇財政指標

- ・ 経常収支比率は社会保障関係費や生駒北学校給食センターの運営費などの増加により、94.3%で0.8ポイント悪化しました。
- ・ 実質公債費比率は昨年度より2.1ポイント増加し4.6%となりましたが、生駒北学校給食センターPFI事業の施設整備費の支出に伴うものです。
- ・ 実質赤字比率は－%（△6.49%）、連結実質赤字比率は－%（△29.30%）、将来負担比率は－%（△85.4%）となりました。

◇積立基金・市債残高

- ・ 積立基金残高は92億1,100万円で、病院事業会計貸付金の貸付元の変更などにより、前年度から22億1,200万円減少しました。
- ・ 普通会計の地方債残高は172億7,600万円で、これまでに借入れた地方債の償還が進んだことなどにより前年度から4億4,500万円減少しました。

この件に関する報道関係からのお問い合わせ

生駒市財政課（課長 小澤、課長補佐 澁谷） ☎0743-74-1111(内線271)